

平成 27 年度 第 2 回伊勢市環境審議会 記録概要

1. 日 時 平成 28 年 1 月 19 日 (火) 19 : 00 ~ 21 : 10

2. 場 所 伊勢市役所東庁舎 4 F 4 - 2 会議室

3. 出席者

中村 貴司 (公共的団体 : 伊勢商工会議所)
川端 利生 (公共的団体 : 伊勢農業協同組合)
杉田 英男 (公共的団体 : 伊勢湾漁業協同組合)
森本 幸生 (公共的団体 : 伊勢市総連合自治会)
高橋 克彦 (公共的団体 : 伊勢市環境会議)
竜田 和代 (公共的団体 : 伊勢市女性団体連絡協議会)
山本 実 (公共的団体 : 小俣町商工会)
高橋 虎彦 (公共的団体 : いせしま森林組合)
朴 恵淑 (学識者 : 三重大学)
中松 豊 (学識者 : 皇學館大学)
谷口 智雅 (学識者 : 三重大学)
岡本 忠佳 (学識者)
笹岡 哲也 (神宮司廳)
打田 雅敏 (三重県南勢志摩地域活性化局)
石原 正博 (公募)
赤坂 知之 (公募)
大中澄美子 (公募)

4. 概 要

(1) あいさつ

○環境生活部長 坂本

- ・伊勢志摩サミット、全国菓子博覧会、国体、高校総体等の行事が見込まれている。
- ・市長からも「掛け算」といわれている。例えば環境と観光を掛け算することで相乗効果が生まれる可能性がある。
- ・多くの部署・分野間で連携して効果を生み出して生きたい。

(2) 第 2 期環境基本計画の進捗状況について (報告事項)

○事務局による説明

- ・資料「平成 27 年度伊勢市環境報告書」

○質問・意見等

- ・燃えるごみについて、遷宮等考慮しても H25 から H26 への増加理由がわからない。何が増えているのか、原因は？
- ・伊勢市はごみ処理の有料化はしていない。有料化して減っている地域もある。他地域の事例研究も含めて対応を検討して欲しい。
⇒ 増えている原因が不明なのが正直なところ。3割程度の資源物の混入があることから、地域に出向いた啓発活動等に取り組んでいる。
- ・空き家対策は都市計画部門が中心となり、環境部門が協力・連携し取り組んでいただきたい。
⇒ 都市計画、住宅、防犯、環境等の多数の部署が連携して取り組んでいる。
- ・ISO14000 は返上している中で、PDCA が動いていることが大事。個々の取り組みについては、担当課で責任をもって取り組んでいただきたい。

(3) 環境教育・環境学習の充実について（審議事項）

○事務局による説明

- ・資料「平成 27 年度環境教育に係る小中学校の取り組み概要」
- ・資料「伊勢市内で実施している環境教育に係る事業一覧」

○意見等

== 森林について ==

- ・森林に関することが少ない。新国立競技場で国産材使用、F S C等の取り組みもあるが課題も多い。林業として成立しにくい状況の中でどうしていくかの検討が必要。
⇒ 担当は農林水産課が主ではあるが環境要素も多分に含んでいる。間伐等の適正管理が大事であり、関係部署が連携して取り組んでいきたい。
- ・県森林税は市町事業にも活用できると聞いているが、伊勢市ではどう取り組んでいるか。
⇒ 今日は具体的内容の資料をもっていないが、活用していると聞いている。
- ・環境学習等は国有林・公有林での取組が主となるのであろうが、民間の事業者やNPO等と連携して取り組むのもひとつ。
- ・環境部門、森林部門、防災部門等が連携して、森林税を活用するなどして取り組んで欲しい。どこが連携の中心になるか、窓口はどこか等の整理が必要。
- ・神宮林は環境学習に適した場所であり、また、トレイルランニングが盛んになるなどの動きもあることから、コース整備等に森林税を活用できないか。

- ・ 神宮林は私有地ではあり、しっかりとした主催者によるものは協議により実施できる見込があるが、活用実績が増え有名になると管理能力が不足した主催者による開催や無許可での開催等が危惧される。
- ・ 伊勢の神宮林等を理解している方を対象としたものは良いが、外国人なども多数対象とする場合、伊勢神宮・神宮林等について知識・認識が薄い方も含まれる。ルール of 徹底が図れないまま、貴重な場所に入れるのは難しい問題がある。
- ・ 間伐の搬出は補助金の対象外であったが、今は対象になったと思う。市としても取り組んでいただければ。
- ・ 鈴工が間伐材の集成材として使用する機械をつくっている。森林保全に向けて連携できるのではないかな。
- ・ 森林管理が十分でないと、流木等で被害も発生する。流木等は杉とか針葉樹ばかり。広葉樹を植えてもらうのが、海のためにも良い森づくりになるのではないかな。明治神宮の100年の人工森づくりにおいても、広葉樹が多く見られた。
- ・ 昔から木を植えるといえば木材の使用を目的とした針葉樹であり、技術体系ができています。広葉樹は目的どおり育てるとするのは難しい。
- ・ 宮川森林組合は、広葉樹も植える取り組みを始めている。1950～1980年頃に杉・ヒノキの森林が多くできた。これからの森林管理づくりが必要。
- ・ 鳥羽で流木処理の船を見たが、とんでもない量の流木がある。漁業者にとっては死活問題であろう。
- ・ 「山・川・海一体で」と言われるように、流域で考え、取り組む必要がある。

== ESDについて ==

- ・ ユネスコの本部もあるパリで開催された温暖化防止会合でも、若い人の意識を変えるためには、どういう教育をしていくかのフォーラム等を実施していた。
- ・ 伊勢市は現時点でユネスコスクールへの加盟は0校であり遅れているが、今日の資料にあるような取り組みを実施しているならば、新しい取り組みを行わなくともユネスコスクール加盟できる。
- ・ 現場からは情報だけいただければ申請における英訳等は三重大学で支援できる。

- ・年間 10 万円の支援制度もある。（採択を受けられれば ※ユネスコスクールE S Dアシストプロジェクト助成金）
- ・1/30 三重大学でシンポジウム開催を予定しており、参加してユネスコスクールの加盟について検討して欲しい。
- ・E S Dの唯一の欠点は「なんでもありすぎる」ことであるが、全てをやらないと加盟できないわけではない。
- ・伊勢としては、いろいろな取り組み実績があるので、世界へ発信するツールとして活用してはどうか。
- ・持続可能な社会づくりという考え方は重要。
- ・小笠原で研究活動等しているが、研究等している方は「データ等を地域住民等に提供するだけであり、守るのは地域の方々」と考えている。伊勢市という特徴的な社会が、その特徴に相応しい形で持続していくことが大事であり、そのための人材育成となる教育が必要。
- ・イベント学習等に取り組んでいるが、環境学習等は「やればいい」というものではなく、一回限りで終了では効果が薄い。コーディネーター等により体系的・計画的に実施することが大切。
- ・ごみの分別啓発を例にとっても、小さい頃から理解・認識を育てることが有効である。
- ・伊勢志摩サミットも開催される中で世界から伊勢の環境面についても注目される。いろいろな場でE S Dについて情報発信し、取り組みを進めて欲しい。
- ・「すーはあーのおはなし」絵本で大人でも子供でも分かりやすい。地元の小学校にも配布し、先生にも好評だった。
- ・皇學館大学と連携し、環境スタディを開催した。「E S D」は難しく感じるかもしれないが、できることからやればいいと思う。
- ・一校でも実績ができれば、追随するところもでてくると思う。
- ・学校での取組が充実してきていると感じる。
- ・学校現場において、外からの働きかけに対する拒否反応等を感じることもあり、また、「教育委員会からの働きかけがないと動きにくい」という声も聞かれるが。

- ・コミュニケーションが不十分な関係では「当方がやります」等と言っても、十分な反応は期待できないと思う。
- ・各学校が特色をもってやっているため、方向付けする（変える）ような働きかけでなく、各学校の特色ある取り組みをベースに、ちょっと色付けする、支援・助言するのが良いと思う。
 - ⇒ 平成 27 年度に、小中の校長会においてユネスコスクールの案内を実施し、いくつかの学校から問合せもあったが、加盟の動きまでには至らなかった。教育内容等については、指導要領に従うことは当然だが、各学校で主体的に取り組むものであり、強制はできないが、今後も継続的に働きかけをしていきたい。

== 教育・啓発の対象について ==

- ・そもそも環境啓発は子どもではなく大人を対象に実施すべき。
- ・子どもが学校で学んでも家庭で親が実践してなければ、子どもは身につかない。

== ごみについて ==

- ・「不明なものは可燃ごみで」と案内されている。それでは変わらない。
- ・合併して収集回数が減った。分別しようと思っても家に置き場がないと対応できない。
- ・都市部のマンションのように各家庭は分別せず毎日でも出せるが管理者が分別等の整理を行う方法、紙ごみ・生ごみ等と細分化しこまめに収集するなど、やり方を変えないと変わらない。
- ・世田谷区は、「燃えるごみを増やして」と啓発し、温水プールで熱利用した。熱利用等も含めて、分別・収集・処理等のあり方を整理する必要がある。
 - ⇒ 財政難の中、「全てを燃やす」ような処理施設や熱利用する施設等の建設や改修費は非常に高額であり、また収集回数の増加も収集経費の増に直結するため対応が難しい。現時点では、現施設をもとに分別等に協力を求めていくしかない。

== 伊勢志摩サミットについて ==

- ・メディアセンターもできる中、伊勢の情報を発信して欲しい。
- ・環境をテーマとした取り組みも力を入れて欲しい。
 - ⇒ 2/1 に手荷物預かり所で伊勢市の情報発信拠点を開設予定

(4) その他（事務案内等）

○事務局より

- ・マイナンバー事務説明（事務局）
- ・「クリーンアップ活動 in 伊勢」案内
- ・「第9回E S T普及推進フォーラム」開催案内

○委員より

- ・3/11 スキルアップ講座「低炭素社会づくりの取り組み」